



# 明日を信じて

新潟市立潟東小学校 平成30年7月20日発行 第4号  
「明日（あす）を信じて」は校歌のサブタイトルです

## ふらいぱんじいさん

校長 篠宮 敏明

昨年度、そして今年度、潟東小学校・潟東中学校・潟東地域コミュニティ協議会は、西川図書館・潟東図書館からご支援をいただき、「うちどく（家読）」の取組を進めています。家族でいっしょに本を読み、家族と本について語り合い、家族のコミュニケーションを深めることをねらいとした取組です。

その一つとして、各校の校長・図書館担当、コミ協スタッフがおすすめの本を推薦し、「ブックリスト」を作成しました。昨年度、私が選んだ本は「ふらいぱんじいさん」（神沢利子 作、堀内誠一 絵、あかね書房）、30年近く前、娘に読み聞かせるために購入した本です。

ふらいぱんじいさんは、長い間使われてきた黒光りするフライパンです。目玉焼きを作るのが大好きで、その仕事を誇りに思ってきました。ところが、家の奥さんが「目玉焼き鍋」を買ってきたため、ふらいぱんじいさんはお役御免になってしまいます。しょんぼりしていたじいさんは、友達のごきぶりに励まされ旅に出ます。ジャングルや砂漠、海でいろいろな出会いと経験をし、最後には鳥の巣となり、卵を守り、ヒナを育てます。ふらいぱんじいさんは新しい仕事、誇り高き役割を見つけたのです。

「自己有用感」という感情があります。「自分は頼りにされている」「自分は誰かの役に立っている」「自分はみんなから認められている」「自分がしたことを感謝されてうれしい」といった感情です。ふらいぱんじいさんも、「頼りにされたい」「役に立ちたい」「認められたい」「感謝されたい」、そんな気持ちで、役割を求めて旅に出たのかもしれない。

学校では、1年生の時から日直や給食当番、係活動の経験を積み、次第に責任ある役割を与え、そして5年生では「委員会」という学校の仕事を任せ、最高学年に向けての意識と意欲を高めていきます。また同時に、異学年グループ（潟東小学校では「にじいろ班」と呼びます）の活動をとおして意図的、計画的にリーダーとフォロワーを経験させることで、子どもたちは「自分は社会の一員である」という自覚を高め、「規範意識」を磨きながら成長をしていきます。

「自己有用感」はお手伝い等の家族の役割分担をとおして育まれるとも言われています。7月25日（水）から夏休みに入ります。夏休みは、家庭・地域が子どもたちの「自己有用感」を育む絶好の場となります。子どもたちに役割を与えてください。うまくできないことや大人がやった方が早い場合もあるかもしれませんが、そこをぐっと堪えていただき、役立ったことを認め、やり遂げたことに感謝の気持ちを伝えていただきたいと思います。

ラジオ体操や地域行事、スポーツや文化活動、親戚が集まる機会、公共施設や旅先等、子どもたちが多様な人とかかわりの中でたくさんの学びを経験し、ひとまわりもふたまわりも大きく成長することを心から願っています。地域の皆様、保護者の皆様のご指導、ご支援をよろしく願い申し上げます。